

平成28年度福岡市小図研 7月定例会記録

文責：池田裕美（野多目小）

7月定例会の内容

日時：平成28年7月30日（土）

13:00～16:30

場所：福岡市立横手小学校図書室・理科室

内容：実技講習 描画シリーズ第3弾

「子どもの思いと技法をつなぐ指導法
ゲット！」

講師 山崎 ひろみ先生（高取小）

小川 将志先生（内野小）

監修 足立 順子先生（東若久小）

隈本 裕寿先生（有田小）

授業研究部会②

参加者：46名

実技講習

「クレヨン・パスの指導」

講師：高取小学校 山崎 ひろみ先生

1. ギャラリートーク

一つの作品を見て、
話をする。

ポイント

- 一つの言葉をつなげながら、話を膨らませていく。
- 作品のそばに寄って行く。
- 5～6人の小グループで行う。
- 作品票は隠して、絵だけを見る。

「実際にやってみましょう！」

①「作品をじっくり見て下さい。」

1分間、黙って見る。



②「気持ちや思いについて話して下さい。」

☆ 何でもというとなので、話す内容を限定する方が良い。

A「玉が届かなかった気持ち」
「確かに。上を一生懸命見てるね。目の位置まで見たんだね。悔しい以外には？」
「入りそうだなという気持ちで投げているんだと思う。」



「どこからそう思ったの？」

「目が上を向いている。口がニコッとしている。」

☆ 「どうして」と聞くと答えにくいので、「どこ？」など答えやすいように尋ねる。

☆ 他にも、色や玉の数などに注目させると良い。

B「笠の様子から、見てみて！という思いでかいたのかな。」

「どの子かな。」

「まん中の子。」

「肌の色から、練習を頑張っていて、日に焼けて大変だった感じが伝わる。」

「色にも目をつけたんだ。」

「花笠をビッ！と回す感じが伝わる。」

「キレキレに決まった時の頑張りが分かるね。」

☆ 他にも、足の大きさ、周りで見ている人などに視点を向けて話すと良い。



ギャラリートークで1枚の絵を通して会話すると、子どものことが分かる。

その後、3つのグループに分かれて、ギャラリートークを進めました。



2. 実技

① パスの技法について

様々な技法を試しながらワンピースを塗って切り取り、麻ひもと一緒に貼る。

☆ 子どもたちが塗ったワンピースを麻ひもにぶら下げて掲示板や窓側に貼るのも Good!



☆ パスにはたくさんの技法があります。



② 顔の色づくりについて

○ 顔の色の例

だいたい+うすだいたい

おうどいろ+うすだいたい

たいたい+おうどいろ

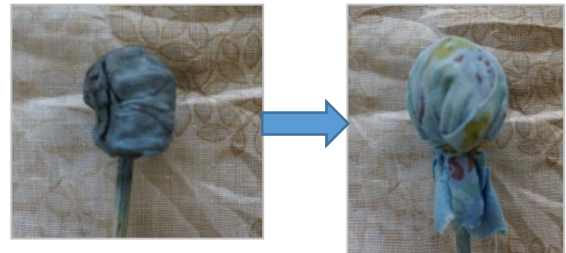


ポイント

- 顔の形を意識して丸っこく塗る。
- 帽子の色のコツ (特に白を塗る時に) 黄色+白, 水色+白で塗る。

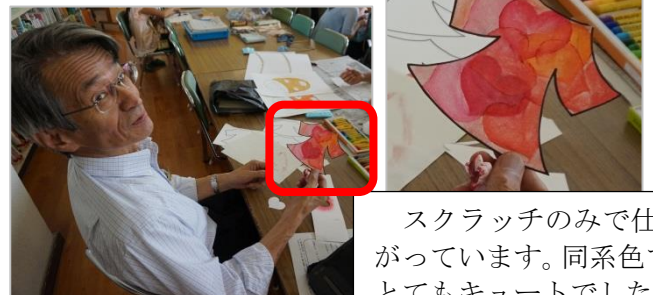
③ たんぽを使って

- 周りを塗る時に使う。
- マイクロファイバー雑巾も使える。



布を固めに巻いて、上から布をかぶせてつくる。

～先生方の様子～



スクラッチのみで仕上がっています。同系色で、とてもキュートでした。



パスの技法を試したり、組み合わせたりしながら、つくり進めました。授業で使える資料づくりができました。